

---

# ある日の夜

有賀美鈴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日の夜

### 【Nコード】

N1483F

### 【作者名】

有賀美鈴

### 【あらすじ】

どこにでもある家庭での、どこにでもある日常の出来事。でも、どこにでもあるそれは、実はそこにしかないものなのではないか。ある日わたしはそう思った。

「ねえママ〜？ ママとパパはどこであったの？」

「それはまだひみつ。夏菜が大きくなったら教えてあげる」

「え〜おおきくなったらっていつ〜？」

「いつか。夏菜はどんな人と結婚したい？」

「かなはねえ、おんなじタンポポぐみのとしきくとけっこんするの。」

「そっかあ。としきくんのどこが好き？」

「ん〜とねえ、サッカーがじょうずなどこ。あとおべんとうをぜんぶたべるの。」

あとねえ〜……あとはねえ〜………」

「…寝ちやったまいたいね。」

わたしは子ども用ベットから静かに体を起こし、布団を整えた。小さな夏菜の寝顔に思わず笑みがこぼれる。

愛しいわが子。

夏菜のおでこにキスをして、子供部屋をあとにした。

煌煌と電気のついたリビングに戻ると、パソコンを前に仕事をしている背中がある。

広い肩幅、きれいについた背筋、そのくせ肩甲骨ははっきり浮き出ている、余分な贅肉はどこにもない。

なんて美しい背中だろう。

もう何年もその背中を見ているのに、思わず見惚れてしまったわたしは、しばらくその後ろ姿を見つめていた。

3

「夏菜、寝た？」

わたしの視線に気づいた光輝が、ふとわたしを振り返ってそう聞いた。

その声で我に返ったわたしは、今更見惚れていた自分に恥ずかしくなり、すっと視線をはずしてキッチンへ向かった。

「うん、寝たよ。コーヒー飲む？」

「ああ、もらおうかな。」

コーヒーの匂いが部屋中を包み込む。

わたしと光輝は、二人でソファに座ってコーヒーをすすった。

「夏菜ね、としきくと結婚するらしいよ。」

「えっ、何、幼稚園の子？」

「うん、同じクラス。あそこの団地に住んでいる子だよ。サッカーが上手なんだって。」

「だめだ。サッカーやるやつは遊んでいるやつが多いからな。」

「何本気になってんの。自分だってサッカーやってたじゃん。」

「おれは中学でちょっとやったただだよ。」

「まあまあ、自分が結婚相手に選ばれなかったからってひがまないの。」

「おれの株、あげなきゃな。今度なんか買ってやるか！」

「物でつらないの！」

「あゝあゝめっちゃめっちゃショックだ……」

「いいじゃん。あんたにはあたしがいるんだから。」

「まあな。おれも人様の娘さんをいただいたんだからな。」

「そうそう、そうやって世の中動いているのよ。」

そんなたわいもない話をして、夜は更けていった。

そして、そんなたわいもない日常が、これから先も続いていく。

でも、たわいもないものが、この世で一番幸せなことだとわたしは思う。

(後書き)

いかがでしたか？

はじめての小説で、連載にしようか迷っています。

もしよろしければ評価をお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1483f/>

---

ある日の夜

2010年10月31日09時47分発行